

児童発達支援 事業者用自己評価集計シート						(別紙5)
		公表 事業所における自己評価結果				
事業所名	ポノポノランド				公表日	年 月 日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		シンプルな空間を意識してなるべく物を置かないようにして空間を広くとるようにしている	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		専門職の配置を心がけ、余裕のある人員配置にしています。	専門職の強化
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	1	トイレの環境 手すりの代わりとなるもので対応している	トイレの手すり設置
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		清掃、消毒、空気清浄機、オゾン発生器を使用して空間を清潔に保つようにしている	清潔を保持するために児童に協力してもらるように工夫する
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		空間を利用してその時の状況に応じて対応するようにしています。（昼寝の時間等の部屋の確保等）	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		定期的にミーティングを行い各児童の目標の一致を図っています。	日々の変化が速いため定着する前に変更が多くなりまとまらない時があるので経時に教諭できるように工夫が必要
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		保護者向け評価表と独自のアンケートを実施し、業務内容改善につなげている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		ミーティングでの発言を大切に肯定的に業務につなげていくようにしている。	意見が言いやすい環境の維持、工夫
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6	外部の方の見学を積極的に取り入れ風通しの良い事業所にしている。	今後の検討課題である。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		eラーニングの導入や外部研修への案内・積極的な参加を促している。	伝達講習会の体制を整備する必要がある。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		ホームページで公表しています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		アセスメントやモニタリング会議・個別支援会議を開いて職員で共有して制作しています。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		ミーティングにて共通理解するように進めています。チャットで見直しもしやすい環境に工夫しています。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	2	日々の変化が速いため定着する前に変更が多くなりまとまらない時がある。その日の課題を共有するように工夫している。	日々の変化が速いため定着する前に変更が多くなりまとまらない時があるので経時に教諭できるように工夫が必要
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	1	他の関係機関と連携しながらインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4	2	アセスメントやモニタリングに基づいて支援に必要な項目を設定しています。	「移行支援」及び「地域支援・地域連携」が今後の課題
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		全体での月の課題を決めて意見を出しあう事から始めている	
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		月の課題から活動内容を決めている		

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6		状況に応じて対応している。	変化が激しいときに支援計画が遅れないようにする工夫が必要である。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	1	朝のミーティングで確認している	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	1	支援終了後でできない時は、朝に振り返りの時間をも設けている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		記録のダブルチェックをするようにしている。	記録を振り返れるシステムの使い方の共有
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		必要に応じて判断して実施している	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		その都度の会議で必要な情報を持っている職員が対応するように声掛けしている	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		即自対応するようにしている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	2	会議以外でも、送迎の際に情報交換を行っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	3	必要に応じて実施している	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		6		今後の検討課題
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		送迎の際に情報共有を行っています。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		6		今後の検討課題
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		見学时や契約時に行っています。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		モニタリング等で意向を確認して反映しています。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6			

保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。		6	必要に応じて実施しています。	定期的なものには今後の検討課題
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3	3	忘年会など家族、きょうだいに参加できるイベントを開催しています。	年2回できるようにします。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		対応する体制がある事をその都度お知らせしています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	3	3	SNSでの発信や個別に送っています。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		周知するように全体共有しています	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	2		今後の検討課題
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		各種マニュアルがいつでも見れるように配置し、定期的に訓練を実施している。	保護者への周知
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		計画的に進めています。	今後、児童の特性に合わせカスタマイズしていく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		契約時に確認している。必要に応じて確認できる一覧表を作成している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		契約時に確認している。必要に応じて確認できる一覧表を作成している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		安全管理について、日々の活動の中で共有しながら実施している。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		必要に応じて家族に確認し周知している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	1	ヒヤリハットがあった際は、ミーティングを実施し再発防止に努め、共有しています。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		事業所内研修とe-ラーニングで実施しています。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6		計画書に記載して説明しています。	

放課後等デイサービス 事業者用自己評価集計シート							(別紙5)
		公表 事業所における自己評価結果					
事業所名					公表日	年 月 日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		シンプルな空間を意識してなるべく物を置かないようにして空間を広くとるようにしている		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	6		専門職の配置を心がけ、余裕のある人員配置にしています。	専門職の強化	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	1	トイレの環境 手すりの代わりとなるもので対応している	トイレの手すり設置	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		清掃、消毒、空気清浄機、オゾン発生器を使用して空間を清潔に保つようにしている	清潔を保持するために児童に協力してもらるように工夫する	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		空間を利用してその時の状況に応じて対応するようにしています。(昼寝の時間等の部屋の確保等)		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		定期的にミーティングを行い各児童の目標の一致を図っています。	日々の変化が速いため定着する前に変更が多くなりまとまらない時があるので経時に教諭できるように工夫が必要	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		保護者向け評価表と独自のアンケートを実施し、業務内容改善につなげている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		ミーティングでの発言を大切にし肯定的に業務につなげていくようにしている。	意見が言いやすい環境の維持、工夫	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6	外部の方の見学を積極的に取り入れ風通しの良い事業所にしている。	今後の検討課題である。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		eラーニングの導入や外部研修への案内・積極的な参加を促している。	伝達講習会の体制を整備する必要がある。	
適切か否か	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		ホームページで公表しています。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		アセスメントやモニタリング会議・個別支援会議を開いて職員で共有して制作しています。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		ミーティングにて共通理解するように進めています。チャットで見直しもしやすい環境に工夫しています。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	2	日々の変化が速いため定着する前に変更が多くなりまとまらない時がある。その日の課題を共有するように工夫している。	日々の変化が速いため定着する前に変更が多くなりまとまらない時があるので経時に教諭できるように工夫が必要	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	1	他の関係機関と連携しながらインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認している。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4	2	アセスメントやモニタリングに基づいて支援に必要な項目を設定しています。	「移行支援」及び「地域支援・地域連携」が今後の課題	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		全体での月の課題を決めて意見を出しあう事から始めている		

支援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		月の課題から活動内容を決めている	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		状況に応じて対応している。	変化が激しいときに支援計画が遅れないようにする工夫が必要である。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	1	朝のミーティングで確認している	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	1	支援終了後でできない時は、朝に振り返りの時間をも設けている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		記録のダブルチェックをするようにしている。	記録を振り返れるシステムの使い方の共有
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		必要に応じて判断して実施している	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6		「4つの基本活動」を複数組み合わせプログラムを作成しています。	①日常生活の充実と自立支援のための活動②多様な遊びや体験活動③地域交流の活動④こどもが主体的に参画できる活動の活動を全職員が理解できるようにする。
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		日々の活動で自己決定支援を意識して行っています。	職員が自己決定に手を出しすぎないように注意する。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		その都度の会議で必要な情報を持っている職員が対応するように声掛けしている	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		即自対応するようにしている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		即自対応するようにしている。日々の送迎での情報共有を意識しています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	1	適時対応しています。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6		必要に応じて対応	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	3	必要に応じて個別相談しています。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		6		今後の検討課題である。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		6		今後の検討課題である。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		送迎時やSNSを利用して常に情報共有できる体制をとっています。	今後も情報共有しやすい環境をつくっていきます。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	3	家族も参加できるイベント開催したり、個別相談を必要に開催しています。	いつでも個別相談や事業所見学ができる事を情報提供していきます。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約時に説明している。	質問には随時対応しています。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		モニタリング等で意向を確認して反映しています。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6			

